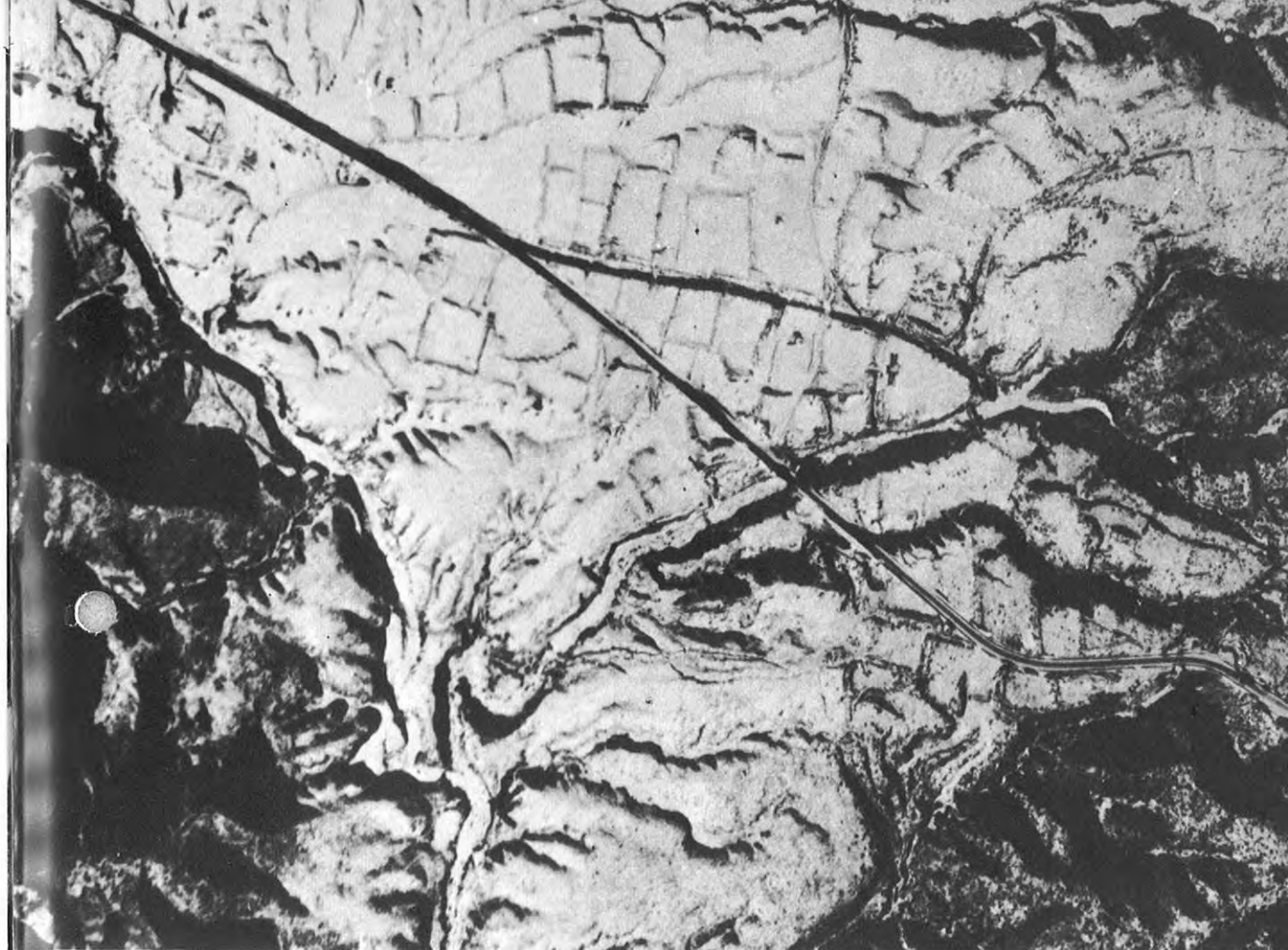




▲ 古坊中の遠景。山頂停車場から西側を見る。遠景は左が杵島岳、右が往生岳



▲ 山麓にある古坊中及び麓坊中の修験者の墓 ヤンボシ塚といわれている



▲ 昭和30年代前半の古坊中。雪の日の航空写真であるので、坊の区画が良く表われている
(四角に見えるのが坊の範囲。ななめに見える道は観光登山道路)

山岳仏教のメッカ

—— 古坊中の遺跡調査 ——

阿蘇山中岳の西斜面に広がる原野に古坊中遺跡は存する。平安時代から戦国期にかけて多くの坊が存し、西国における山岳宗教の中心地として栄えたと伝えられる(阿蘇文書、肥後国誌等)。

しかし、戦国期の相続く戦乱により、坊は滅亡したが、肥後に入国した加藤清正により慶長年間に阿蘇山麓の黒川の地に再興された。

小字古防中一帯には、坊で使用したと推定される雑器類の破片が散乱する。また少なからぬ石造物(五輪塔、板碑)が存したと伝えられるが、多くは好事家等により移動せられており、その実体を明らかにしない。現在も古坊中には坊址と考えられる人為的地形が確められる。毎年阿蘇山の噴火と観光客等の出入により年々現状は変わりつつある。

(文化課)